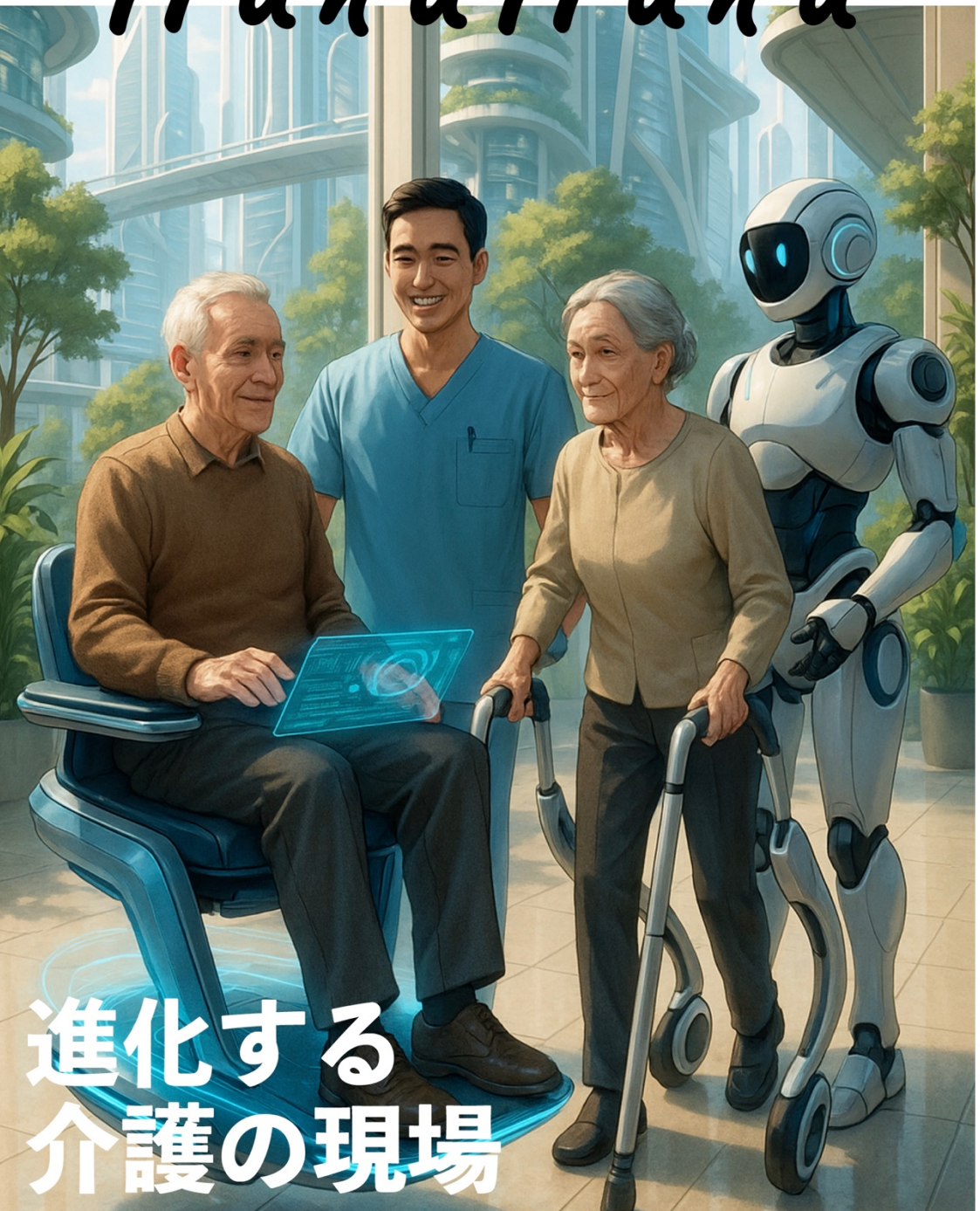
第15号｜2025年

はな華 HanaHana



進化する介護の現場

HanaHana
社会福祉法人 三幸福祉会 清華苑
miyukifukushikai seikaen
HanaHana 2025年 第15号
2025年6月15日発行 編集:SEIKAEN Design Lab 発行人:池田ひとみ
社会福祉法人 三幸福祉会 〒674-0051 明石市大久保町大窪3104-1 TEL 078-934-0800 https://seikaen.jp/

表紙と裏表紙のイラストは、ChatGPT に未来の介護施設をイメージして描いてもらいました。はたして100年後は、このような世界になっているのでしょうか？

今回の特集は、「進化する介護の現場」と題し、特別養護老人ホーム清華苑で導入しているICTの活用状況をクローズアップしました。

ChatGPT にAIのメリット・デメリットについて質問すると、「AIツールは、便利で効率性の向上や創造性を補うことに役立ちますが、頼り過ぎることは、依存性のリスクによって自分で意思決定することや問題解決力が落ちる可能性があります。あくまで補助ツールとして参考程度に使い、自分の頭で考え判断する事が大切です。」という回答が返ってきました。

科学はどんどん進歩しますが、AIに使われるのではなく、適時適切に判断し、上手に活用していく事が大切ですね。

社会福祉法人 三幸福祉会
清華苑
miyukifukushikai seikaen

進化する介護の現場

テクノロジーと人の心が調和する、「愛のある介護」を目指して

特別養護老人ホーム 清華苑
施設長 岩西太一

*ノーリフトケア
「抱え上げない」「持ち上げない」「引きずらない」を原則とするケアのこと

少子高齢化が進む中、介護の現場も大きな変化を迎えています。特別養護老人ホーム 清華苑では、「より良い介護」を目指し、ICTや福祉機器の導入に積極的に取り組んできました。

その第一歩は、平成25年に導入した2台の移動型リフトでした。当時は「人の手で介護することが正義」という風潮があり、機器の導入には根強い反対意見もありました。職員がご利用者に直接触れる機会が減ることで信頼関係が損なわれるのではという声や、操作に手間がかかるとの指摘もありました。

そうした中で、当時の介護リーダーを中心に、腰痛予防や介護の質向上を目的としたノーリフトケアの必要性を丁寧に訴え、職員教育やマニュアル整備、環境づくりを行うことで、少しずつ理解と実践が広がっていきました。今では、移動リフトは現場に欠かせない存在となっています。

その後も、兵庫県の「介護ロボット導入支援事業」などの補助制度を活用しながら、さまざまな機器の導入を進めてきました。その背景には、ご利用者にも職員にも「今よりもっと良くしたい」という強い思いがあります。従来の方法にとらわれず、変化を恐れず、理事長や総施設長の理解と支援のもと、挑戦を続けてきました。

しかし、どんなに技術が進んでも、私たちが決して忘れてはならないものがあります。それは「人と人とのつながり」、そして「心を込めた、愛のある介護」です。ICTは、あくまでも道具であり、それを使うのは、私たち職員です。例えばセンサーが「起き上がり」を知らせてくれてもそこに駆けつけるのは、温かな手を差し伸べる職員です。記録が自動で取れても、その方の表情や声のトーンから「今日は少し元気がないな」と気づくのは、職員の目と心です。

技術の力で業務にゆとりが生まれた分、「ご利用者とゆっくり向き合う時間が増える」それこそが、清華苑の考えるICT化の本当の価値だと考えます。

私たちは、ICT化を進めることで、より多くの「寄り添う時間」をつくりたいと考えています。手を握る、目を合わせる、話に耳を傾ける。その一つひとつが、ご利用者にとって大切な「生きる力」となり、私たちにとっても「介護のやりがい」となっています。

これからも、「便利さ」だけでなく「ぬくもり」を大切に。テクノロジーと人の心が調和する、愛のある介護を実践してまいります。

多角的介護ＤＸの時代に突入

多角的介護ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）とは、介護の現場や業務に対して 多方面（多角的）からデジタル技術を活用して変革を起こす取り組みです。単に機器やシステムを導入するだけでなく、人・業務・サービス・経営すべてを含めて、より良い介護を目指す全体的な変革のことを意味します。

近年、ＡＩやロボットが人の代わりに働く時代となってきていますが、介護業界では人と人との関わりが重要とされ、ＡＩやロボットの導入は難しいと考えられてきました。

そうした中、当法人では、職員の負担軽減と業務効率化、ご利用者との関わりを増やすこと、さらにケアの質や職員のモチベーション向上を目的に、移乗用リフトや眠りスキャン、チャットワークなどのＩＣＴ機器を導入しました。

具体的には、床走行型リフトや浴室天井走行型リフト、眠りスキャンの導入により、職員の身体的負担が軽減され、腰痛による療養や退職が大幅に減少しました。

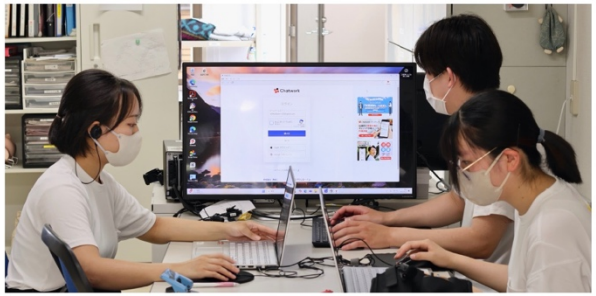
また、眠りスキャンを活用することで、ご利用者の睡眠状況を把握し、その方に合ったケアを提供できるようになり、介護職員の日々の業務に時間的・精神的なゆとりが生まれました。

情報共有のソフトやタブレットを活用することでご利用者のケアの統一や多職種間の連携がスムーズになり、職員同士の情報共有が効率化されました。

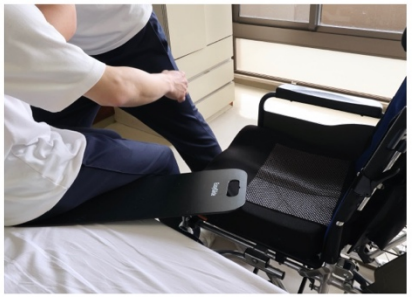
このように、多角的にＤＸを進めることは、働きやすい職場環境となり、業務の効率化に加えて職員の意欲向上などさまざまな面で成果が表れています。

今後も業務改善を重ね、ご利用者がより安心して過ごせる環境づくりを目指していきます。

（特別養護老人ホーム清華苑
介護員　木村海誠）



業務連絡はパソコンのソフトを利用して確認します

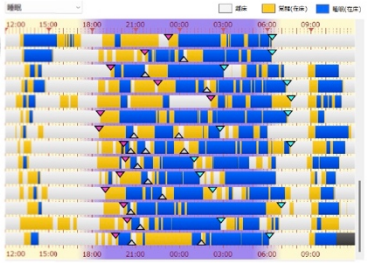


スライディングボードを使用した移乗介助

インカムを使用して情報を瞬時に共有

ケアパレット
iPad で専用アプリを使用します。事務所のパソコンで使用しなくても端末上で記録出来る点がメリットです。

眠りスキャン
睡眠や覚醒状態などリアルタイムで確認出来ます。排泄誘導など個別対応が可能です。

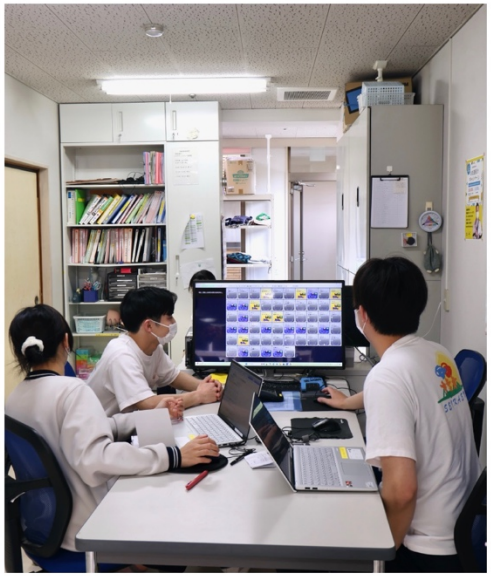


変革が介護現場に好循環を生み出しました。

令和７年度　近畿老人福祉施設研究協議会　和歌山大会　分科会で「現場が変わった！多角的介護ＤＸの挑戦記」を発表する予定の特別養護老人ホーム　清華苑の木村介護員（左）と入江介護員（右）

ノーリフティングケア（浴室天井走行型リフト）

天井に取り付けたレールを走行して入浴時の移動・移乗介助を行う為のリフト。広い範囲を移動する事が可能。



眠りスキャン

ベッドに設置したセンサーによって体動を測定し、睡眠や覚醒などをリアルタイムで把握できるシステム。

タブレット記録アプリ（ケアパレット）

タブレットにインストールしたアプリを使用して、入力する場所は限定されず、簡単に記録する事が可能。

インカム

複数で同時に会話ができる無線機器。通信相手の声はイヤホンを通じて直接耳に届く。ハンズフリーで会話が可能。

ＩＣＴ機器導入後のスタッフアンケート

ICT機器や介護ロボットは、導入して終わりではありません。新しく導入した機器の使用状況など、業務の効率化や合理化にどう影響を与えたのか効果測定を行う必要があります。
当苑では、ICT推進委員会を立ち上げ、導入前のマニュアル作成や導入後における問題点の検証やスタッフアンケートの実施など行いました。ICT機器導入後におけるスタッフアンケートの結果を抜粋します。

ノーリフティングケアの導入で身体は楽になりましたか？

「ご利用者を抱えることが減り、身体的負担が軽減された。」

「リフトを使うことにより、ご利用者のケガや身体的負担が軽減されていると思う」

「夜勤明けの腰の痛みが少なくなった」

眠りスキャンの導入で夜間巡回の負担は軽減されましたか？

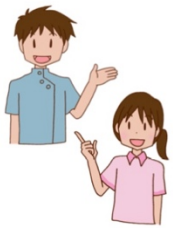
「以前までは夜間巡回にとても時間がかかっていたが、今はモニターで一括確認できる為、身体的精神的にも負担が軽減された」

「睡眠や覚醒状態を把握できるので、離臥床のタイミングや排泄時間などを工夫することができ、ご利用者の負担を減らす事に繋がった」

タブレット（ケアパレット）導入で業務は効率化されましたか？

「介護記録を転記する必要がなくなり時間短縮できた」

「一つの介助ごとに記録ができるので効率的で正確性も高くなった」



インカムの導入によって職員間の情報共有はスムーズになりましたか？

「以前は職員がどこにいるか館内を歩いて探していたが、インカムを活用することで他の職員の居場所や何をしているかなど状況把握が容易になった」

ＩＣＴ機器の導入によって、ケアの質が向上しました！